

平成23年3月期 第2四半期決算  
補足説明資料  
(決算の概要および業績見通し)

平成22年10月28日



JFE商事ホールディングス株式会社

- 1 . 平成23年3月期 第2四半期連結決算のポイント
- 2 . 連結損益計算書
- 3 . 連結貸借対照表(要約)
- 4 . 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)
- 5 . セグメント情報
- 6 . 平成23年3月期連結業績予想及び配当予想
- 7 . 第二次中期経営計画(2009～11年度)の取組み
- 8 . 《参考》売上高・経常利益推移(連結)

# 1 . 平成23年3月期 第2四半期連結決算のポイント



売上高は、輸出が堅調に推移したこと、国内では自動車分野が引き続き好調であったほか、建設機械・産業機械や造船分野においては回復の動きが強まるなど、前年同期比で 1,095億円増収の 9,966億円。

経常利益は、国内外のグループ会社の収益が改善した事により、前年同期比 63億円増益の 118億円。

四半期純利益は、経常利益63億円の増益に特別損益、法人税等及び少数株主損益の増減を加味した結果、前年同期比 44億円増益の 74億円。

## 2. 連結損益計算書

(億円)

	第1Q	第2Q	当四半期	前年同期	増減(累計-前年同期)	
	(4-6月)	(7-9月)	(4-9累計)		増減	増減率
売上高	4,840	5,126	9,966	8,871	1,095	12%
売上総利益 (利益率)	176 (3.6%)	185 (3.6%)	361 (3.6%)	308 (3.5%)	53 (0.2%)	17%
販管費	125	122	247	252	5	2%
営業利益	51	63	114	56	58	104%
営業外損益	2	2	4	1	5	
経常利益	53	65	118	55	63	115%
特別損益	1	-	1	-	1	
税引前 四半期純利益	52	65	117	55	62	113%
四半期純利益	31	43	74	30	44	147%

### 売上高・売上総利益

JFE商事(単独)	+1,209	+24
・鉄鋼	+915	+16
・原材料,資機材	+294	+8
国内建材系分社3社	33	5
国内子会社	+29	+12
海外子会社	+80	+14
連結修正	227	+2
HD、分割3社(連結)	+37	+6

### 販売費及び一般管理費

人件費、一般経費の減 他

### 営業外損益

持分法投資損益	+8
投資有価証券評価損	2 他

### 特別損失

当四半期: 資産除去債務	1
前年同期: 無し	

### 3. 連結貸借対照表（要約）

（億円）

	当四半期末 (9月末)	前年度末	増減
総資産	5,571	5,268	303
純資産	1,102	1,071	31
有利子負債	1,095	1,081	14
有利子負債倍率 (DER)	1.04倍	1.06倍	0.02倍
自己資本比率	18.9%	19.4%	0.5%

#### 有利子負債

鋼材価格の上昇などに伴う運転資金の増加により  
前期末比14億円増の1,095億円。

海外子会社：+15（内、為替による影響 7）他

#### 総資産

鋼材価格の上昇に伴って売上債権や棚卸資産が増加した事等により、前期末比303億円増の5,571億円。

現預金 +29  
 売上債権 +293：J商 +231、国内建材系分社3社 +33、  
 分割会社 +3、国内子会社+22、海外子会社+4  
 棚卸資産 +43：J商 4、国内建材系分社3社 +3、  
 分割会社 1、国内子会社+15、海外子会社+30

#### 純資産

##### 《31億円増の内訳》

～増加～ 四半期純利益 +74億円  
 少数株主持分 +0億円  
 ～減少～ 評価・換算差額 31億円  
 支払配当 12億円

利益剰余金 +62（純利益 +74、支払配当 12）  
 評価・換算 31（株式 18、為替 13 他）  
 少数株主 +0

#### 有利子負債倍率（DER）

= 有利子負債 ÷（純資産 - 少数株主持分）

#### 自己資本比率

=（純資産 - 少数株主持分）÷ 総資産

## 4 . 連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

( 億円 )

	当四半期 ( 4-9 累計 )
営業活動による C F	43
投資活動による C F	11
フリー・キャッシュ・フロー ( F C F )	32
財務活動による C F	6
現金及び現金同等物の増減	33
現金及び現金同等物 ( 期首 )	242
現金及び現金同等物 ( 期末 )	273

### 営業活動による C F

税引前利益	+ 117
減価償却	+ 28
営業立替の増	32
在庫の増	50
法人税等の 支払及び還付	5 他

### 投資活動による C F

有形固定資産の取得	11
無形固定資産の取得	4 他

### 財務活動による C F

借入金の増減	+ 22
配当金の支払	12 他

## 5. セグメント情報

( 億 円 )

	当四半期 ( 4 - 9 月 累 計 )	
	売上高	経常利益
鉄鋼および鉄鋼周辺	9,783	111
食品	129	5
半導体	51	3
不動産他	3	1

当第一四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成20年3月21日 企業会計基準適用指針第20号)を適用しております。

### 鉄鋼および鉄鋼周辺

#### 《鉄鋼分野》

アジア新興国や中東地域における拡販を精力的に展開してきた事に加え、環境・エネルギー分野への販売活動に注力。  
今後更なる拡大が見込まれる自動車向け鋼板需要に対応するため、タイに鋼材加工センターの設立を決定。

#### 【ご参考】鋼材数量・単価の前年同期比較(JFE商事・単体)

国内鉄鋼：数量 + 680千トン、単価 6.5千円/トン  
鉄鋼貿易：数量 172千トン、単価 + 224ドル/トン

USD平均レート(4月～9月)：96.56円 89.97円

#### 《原材料分野》

国内粗鋼生産量の回復に伴う鉄鉱石および石炭などの鉄鋼原料やクロム系合金鉄の需要拡大を確実に捕捉。  
メキシコ・カナダ産鉄鉱石や豪州産石炭の中国・韓国向け三国間取引にも積極的に取組む。特に石炭分野では優良なPCI炭や一般炭を長期的かつ安定的に確保するため豪州にて新たな権益を取得。  
鉄スクラップにおいては、国内集荷拠点の整備や新規仕入先の開拓などにより、輸出及び三国間取引の拡大に努める。

**食品** 第3のビール『プライムドラフト』が堅調に推移したことに加えて、中東地域向けツナ缶詰や中国産果実缶詰が好調。

**半導体** 世界的な需要回復を受けて、堅調に推移。  
特に事務機器用ICが前年に比べて大幅に回復。  
また、遊戯機器用画像基板も好調に推移。

**不動産** 保有不動産の売却に取組む。

## 6. 平成23年3月期 連結業績及び配当予想

### 鉄鋼業界の動向

輸出は引き続きアジア向けを中心に堅調に推移すると想定される。

国内では土木や建築分野において厳しい状況が続く一方、外需に牽引された自動車分野が引き続き好調に推移し、建設機械・産業機械分野も回復の動きを強めるとともに、造船分野についても堅調な需要水準を維持するなど、全体的に回復基調が続くと考えられる。

上記のとおり当社を取り巻く環境は回復傾向にあると思われるが、各国政府における景気対策の終了の影響や中国およびアジア諸国における鋼材の需給環境、原材料の価格動向、直近の円相場の上昇など懸念要素も多く、今後の状況を十分に注視していく必要があると考える。

当第2四半期累計の業績は  
予想を上回るペースで推移したものの、  
第3四半期以降に多くの懸念要素が  
みられる

業績予想に変更なし。  
(平成22年4月28日公表)



## 6. 平成23年3月期 連結業績及び配当予想

### 4月28日公表の業績予想値に変更なし。

(億円)

通期連結業績	11.3期 予想	10.3期 実績	増減額	増減率
売上高	21,800	18,119	3,681	20%
営業利益	255	151	104	68%
経常利益	250	145	105	73%
当期純利益	155	75	80	107%

1株当たり配当金	10円	5円
	期末で実施	期末で実施

## 7. 第二次中期経営計画(2009～11年度)の取組み

### JFE商事グループ 第二次中期経営計画 (2009年4月～2012年3月)

#### 〈経営ビジョン〉

「鉄鋼商社でトップレベルのエクセレントカンパニーを目指す」

#### 〈重点経営課題〉

**収益基盤の更なる強化**      **今後中長期的に増大すると考えられる海外需要への対応**

##### 〈鉄鋼分野〉

中国・インド・タイをはじめとする新興国において、

需要家のニーズに即応した鋼材加工センターの新設や機能拡充を図る。

アジア地域を中心に当社顧客をはじめとする鉄鋼関連企業との資本参加を含む協力関係の構築を積極的に進める。

##### 〈原材料分野〉

鉄鉱石や石炭をはじめとする鉄鋼原料の新規仕入ソースの開拓を進めるとともに、優良な資源投資について、積極的に検討する。

#### 人材の育成・強化

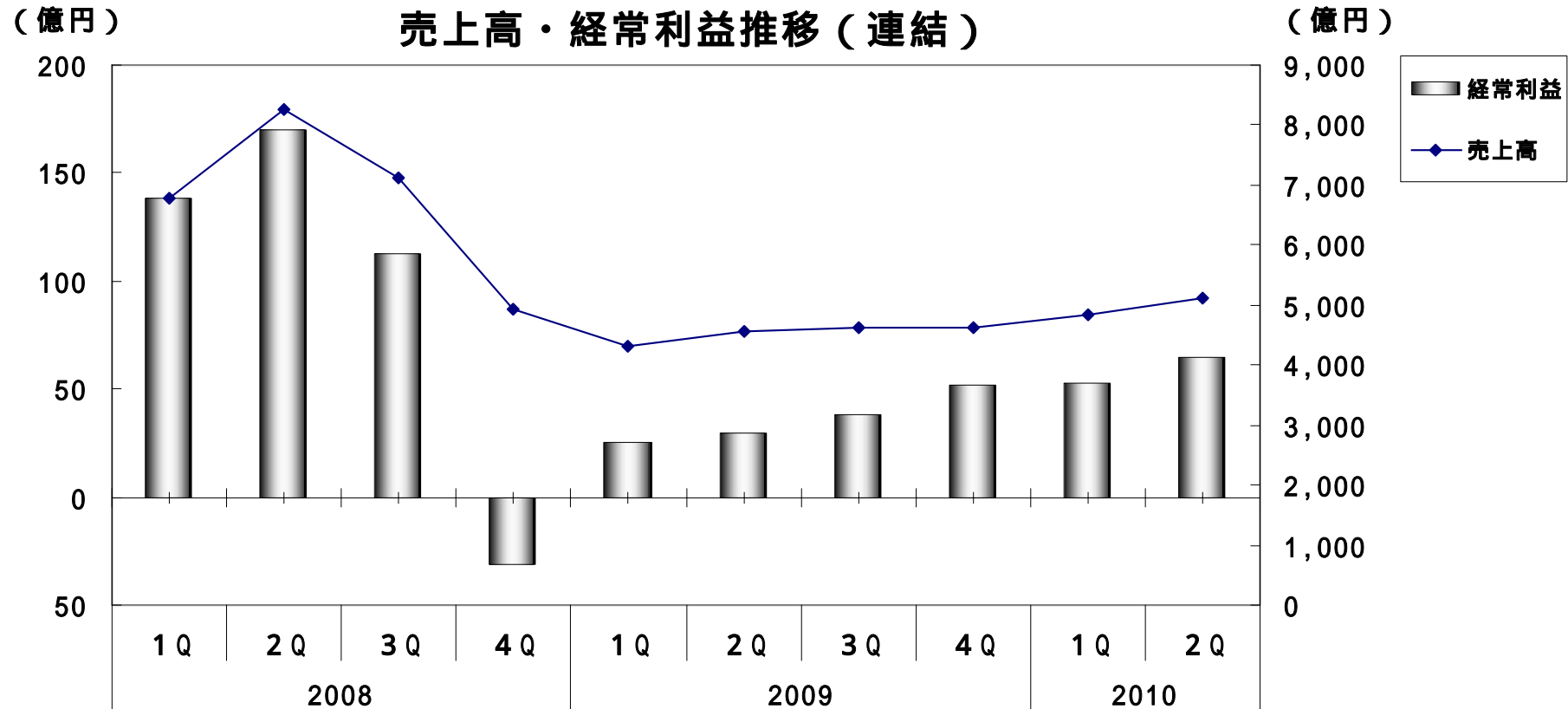
・「時代の変化に対応できる前向きなマインドを持ったプロフェッショナルの育成」、「グローバルな視野を持ち、広く国内外で活躍できる人材の育成」を目的に、研修プログラムの充実や計画的なローテーションを進める。

#### グループとしての新たな企業風土の確立

#### CSR活動の強化と経営インフラの整備

・多くの鋼材加工系事業会社を有していることから、安全衛生面での改善活動を積極的に推進。  
安全性の向上を目的とした設備投資のほか、各社スタッフを中心に開催する安全分科会等を実施。

## 8 . 《参考》売上高・経常利益推移（連結）



（億円）

	2008年度				2009年度				2010年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	6,793	8,245	7,110	4,918	4,320	4,551	4,629	4,619	4,840	5,126
経常利益	138	170	113	31	25	30	38	52	53	65



**JFE**

\* 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって見通しと異なる場合があります。